

「今年こそ憲法改正実現の年に！ 国会発議・国民投票に向けて」

麗澤大学特別教授 元空将 織田邦男

今年は動乱の年となることが予想される。ウクライナ戦争は激戦が続き、「ガザ戦争」は「中東紛争」へと拡大する可能性もある。日本にとって決して対岸の火事ではない。呼応して「台湾有事」が起きる可能性があるからだ。

台湾有事は日本有事である。状況によっては自衛官が命がけで出動することがあるかもしれない。

現在、国民の90%以上は自衛隊の存在を認めている。だが、憲法学者の約60%は未だ違憲とみている。自衛隊の存在は、政治的には解決しているが、法的には未だに解決していない。

宙ぶらりんの存在である自衛隊を放置し、自衛官に名誉を与えもせず、命を懸けて国を護れと言うのか。政治はあまりにも身勝手すぎる。

本来なら、憲法9条2項を全面改訂すべきである。政治状況でそれが無理なら、せめて自衛隊を憲法に明記することだ。

隊員募集への影響も大きい。昨年、任期制隊員の募集は、必要人数の5割にも満たなかった。違憲の疑いのある組織に、親は子供を入れたいと思うだろうか。政治の怠慢により自衛隊は存続の危機にさらされている。それは即ち日本の危機である。

自民党は4項目の改正案を提示している。特に「自衛隊の存在明記」と「緊急事態対応強化」は急がねばならない。

議論は出尽くした。もはや小田原評定を繰り返している場合ではない。今こそ憲法改正の行動に踏み出す時である。